

2025年度 学生評価委員会 報告書

1. 学生評価委員会編成の経緯

共立女子大学・共立女子短期大学では、大学・短期大学の諸活動を点検・評価する中で在学生からも広く意見等を募り、将来へ向けて改善していくことを目的として、大学・短期大学自己点検・評価規程に従い大学・短期大学自己点検・評価実施委員会のもとに、2025年4月1日付で「学生評価委員会」を編成した。

委員の選出にあたっては各学部・科から2名ずつの推薦を受け、合計20名が学長より委員として委嘱された。

2. 2025年度学生評価委員会の開催日時とテーマ

・第1回学生評価委員会

日 時：2025年7月28日（月） 17：00～18：30

場 所：2号館606講義室

テーマ：「履修計画」について

開催形態：対面グループワーク形式

・第2回学生評価委員会

日 時：2026年1月29日（木） 17：00～18：30

場 所：2号館606講義室

テーマ：「リーダーシップの共立」の取組みについて

開催形態：対面グループワーク形式

3. 2025年度の活動概要

第1回目の活動では、学位授与方針（DP）に定める資質・能力の修得を意識した「履修計画」について、委員会活動を通じて現状把握と課題の抽出を行った。委員の学生からは、シラバスや友人・先輩からの情報が履修計画を立てる際の重要な判断材料となっている実態が報告された。一方で、科目ナンバリングやカリキュラム・マップといった支援ツールはあまり活用されていない傾向がみられ、その要因として認知度不足や使いにくさが挙げられた。改善点として、履修支援に関して、ガイダンス等の支援体制、シラバスや履修ガイド、カリキュラム・マップ等のツール、履修に関する情報提供の在り方といった複数の観点から見直しの必要性が挙げられた。特に、各ツールの役割の明確化や、学生にとって理解しやすい形での情報提供の工夫の必要性が挙げられた。

第2回目の活動では、「リーダーシップの共立」の取組みをテーマとし、委員会活動を通じて学生の認識や実践状況の把握、および課題の抽出を行った。委員の学生からは、「共立リーダーシップ」は、他者と協働しながら目標達成を目指す、誰もが発揮できる相互支援型のリーダーシップとして広く認識されており、授業や学内活動を通じて自然と力が身についていると感じているという意見が多くみられた。一方で、学部・学科によってリーダーシップに触れる機会が異なると感じていることや、評価基準（ループリック）の内容が理解しにくいこと、振り返りの機会が活動の最初と最後に限られていること、記録システム（マイステップ）の操作性に改善の余地があることなどに加え、リーダーシップ関連科目について、1年次では必修として位置付けられている一方で、2年次以降は学部・科によって履修の機会が異なることから、通年的な学びとしての位置付けの在り方も課題として挙げられた。改善点としては、定期的な目標設定と振り返りの仕組みの導入や、評価基準のわかりやすい提示、マイステップの操作性向上等が挙げられた。

以上

2025年度第1回学生評価委員会 開催報告

1. 開催概要

日 時: 2025年7月28日（月）17:00～18:30

場 所: 2号館606講義室

テーマ: 履修計画について

開催形態: 対面グループワーク形式

参加者: 学生17名、教職員15名

2. 目的

本委員会では、DPに定める資質・能力の修得を意識した履修計画の立て方について、学生の理解度や実践状況を質的に把握することを目的とし、学生の率直な意見を収集・分析し、今後の履修ガイダンス等の内容改善や、学生の主体的な学びを促すための支援体制・情報提供のあり方を検討するための具体的な示唆を得ることをねらいとする。

【評価の観点と活用方法】

観点	評価内容	活用方法
現状把握	学生自身がどの程度DPを意識した履修をしているか、履修計画のためのツールや支援の理解度	今後のガイダンス内容の改善、学部ごとの支援体制の見直し
優良事例の共有	有効に活用している学生の意見や、学部での好事例	他学部・他学生への水平展開
改善提案	不足や不明点に対する要望・提案	自己点検評価・教職員研修等へのフィードバック

※ツール（履修ガイド、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、履修系統図、履修モデル、科目ナンバリング）

3. プログラム

3-1. 事前活動

事前活動として「履修計画について」アンケート回答および、学生評価委員会の役割と位置づけについて、過去の委員会で説明した動画を視聴。

3-2. 当日活動

①開会の挨拶

山口副学長より学生評価委員会の目的と意義、期待することについて挨拶。

②本日の活動テーマと流れの説明

上西全学教育推進機構員より、当日の活動テーマと、流れについて説明。

③「履修計画について」の説明

教育推進グループより、履修計画とDP（ディプロマ・ポリシー）の関連性、各種履修支援ツールの活用方法について説明。

④ウォームアップ・意見交換

自己紹介後、事前に実施したアンケート結果を共有し、履修科目を決める際の基準やDPへの意識について意見交換。

⑤グループワーク

「より良い履修支援のためにどのような工夫・仕組みがあるとよいか」をテーマに議論。

⑥グループ意見発表

各グループで出た意見を発表し、全体で共有。

⑦閉会の挨拶

伊藤副学長より、学生の意見に対するフィードバック。

3-3.事後活動

事後活動として、事後アンケートへ回答および、kyonetマイステップに学生評価委員会の活動について入力。

4.事前アンケート結果の概要

回答件数：20件/20人（回答率100%）

学生は、履修計画を立てる際に「シラバス」を最も重要な情報源としており、次いで「単位の状況」や「友人・先輩からの情報」を参考にしていた。一方で、「科目ナンバリング」や「カリキュラム・マップ」といったツールはあまり活用されていない傾向が見られた。また、必修科目の内容等の確認についてはシラバスで行っているが、選択科目と比較すると詳しく確認しない学生もあり、履修計画に対する意識にばらつきがあることが確認された。

5.意見交換の詳細

5-1履修計画の立て方や各ツールの活用について

Aチーム

アンケート結果のシラバス活用率の高さに驚いた。

- ・シラバスから課題や評価方法、担当教員の雰囲気などを参考にしている。
- ・今回の履修ツールに関する説明が分かりやすかった。
- ・提案：大学入学当初の1年生の不安な時期に、今日のプレゼンテーションのような分かりやすい説明があれば、大学側と学生側のWin-Winの関係になれる。1年生のガイダンスでの実施を希望。
- ・短期大学（文科）では助手の先生が、文科の学生が使うであろうページを印刷してまとめて配布してくれたため、履修が組みやすかった経験がある。

Bチーム

- ・情報量が非常に多く、どのように活用すれば良いか分からない。特に1年生の時に履修登録で困った経験が多い。
- ・先輩や友人からの情報は有効だが、履修登録時に先輩とのつながりを持つ機会が少ない、また自分が得た情報を下の学年に伝える機会がない。
- ・科目ナンバリングは全く知らなかった。
- ・必修科目が多い学部（児童・看護）では、必修科目のシラバス確認がおろそかになりがちで、テストやレポートの内容だけ確認するといった意見があった。
- ・シラバスでは、授業の概要や、試験・レポートの比重などを確認している。

Cチーム

教員（助手）との距離感が学部によって異なるという発見があった。

- ・大学の共有ドライブに情報が多く格納されており、学生が追い切れていないこと、ツールの使い方を完全に理解している学生が少ないという共通の認識。
- ・提案：履修ガイドが分厚く、全学部の情報が載っているため、自分の学部以外の情報が不要に感じられる。履修モデルなどをQRコード化し、自分の学部だけの情報に絞って提供することで、より活用しやすくなるのではないかな。

Dチーム

アンケート結果について、予想以上にシラバスを確認している学生が多い印象。

- ・必修科目が多い学部と少ない学部で意見に違いがあった。
- ・履修計画のためのツールは数が多すぎて、何を使えば良いか、それぞれの違いが分かりにくいという感想。
- ・科目ナンバリングについては、多くの学生が初めて見た・知らなかった、使いにくいと感じていた。

5-2より良い履修支援のためにどのような工夫・仕組みがあるとよいかについて

Aチーム

- ・現状認識

そもそも学生はこの委員会（学生評価委員会）の存在を知らない。履修登録サイトが一時的にしか開設されず、新入生は混乱する。情報が多く、またサークルに入っていない学生は情報が少ないなど、情報量に偏りがある。

- ・解決策/提案

履修登録ページの常設。

入学時にDPなどの説明をプレゼンテーション形式で行う

授業評価アンケートの結果開示。次年度の履修登録時に学生のリアルな声が参考になる。

Bチーム

- ・現状認識

履修ガイドは全学部の情報がまとまっており、自分に必要な情報を見つけにくい。カリキュラムマップや履修系統図などのツールへのQRコードが資料の最後にまとめてあり、見落とされがち。

- ・解決策/提案

各学部ごとのガイドブックや冊子を作成し、必要な情報が1冊で完結するようにする。

1年生向けにカリキュラムマップなどのツールの詳しい説明をガイダンスで必須化する。

全体ガイダンスだけでなく、少人数のクラスごとにも説明会を設ける。

必修科目が多い学部では、これまで科目ナンバリングなどのツールをあまり活用してこなかったが、今回理解できたので、今後同級生や後輩にも伝えたい。

Cチーム

- ・現状認識

履修ガイドの情報量が多く、見づらい。他の学部の情報は不要。QRコードから何度もページを開くのは手間。学部によって制度に違いがあり、相談しやすい環境の整備が必要。

- ・解決策/提案

学部学科ごとに履修ガイドを分け、必要な情報を紙にまとめる（QRコードも直接印刷）。

学部間の制度の違いを補う、相談しやすい環境を整備。

短期大学の「履修科目単位チェック表」の導入を大学全体に広める。これはExcelのようなツールで、自分が取得した単位を入力すると卒業要件を満たしているか一目で分かり、1年生から安心して履修計画を立てられる。

先輩に履修を見てもらう機会を増やす。任意で参加できる相談会などを設け、先輩の失敗談などを共有することで、1年生の履修失敗を防ぐ。

Dチーム

- ・現状認識

ツールの役割が分かりにくく見づらい。入学時の説明は受けているが、1年生には何も頭に入っていない。ガイダンスの説明が不十分で、ツールの必要性が伝わっていない。

- ・解決策/提案

ツールの説明をより詳しく、分かりやすく最初に行う。

時間割のモデルを各学部学科で作成し、提示する（食物栄養学科で実施されており便利だと感じたため）。

履修ガイドを学部学科ごとに分ける（厚く、重く、自分以外の情報が多い）。

先輩と話せる機会を毎年設ける。特に2・3年生になると教員との対面相談の機会が減るため、対面で話せる機会を設けてほしい。

6.事後アンケート結果の概要

回答件数：20件/20人（回答率100%）

履修計画を立てる際に、学生は「カリキュラムマップ」や「履修系統図」を重要だと考える一方で、「科目ナンバリング」についてはあまり重要視していないことが確認された。

多くの学生は、これらのツールが学びの全体像や科目間のつながりを理解するのに役立つと認識している。しかし、「存在を知らなかった」「使い方がわからない」といった理由で十分に活用できていない現状が明らかになった。

今後、ツールを有効活用してもらうためには、その役割や活用方法を簡潔かつ具体的に説明することや、学部ごとに資料を整理して見やすくすることなど、様々な工夫が必要であるという意見が確認された。

7.学生評価の総括

事前アンケート、当日の意見交換、事後アンケートを通じて、「履修支援」に関する学生の現状認識と具体的な改善提案が共有された。

【履修支援ツールについて】

- ・前提として履修計画のためのツールが十分に活用されていない。
- ・事前アンケートからは、学生が履修計画を立てる際に、大学が提供するツールよりも「シラバス」や「これまでの単位数」、友人や先輩といった「学生間の情報共有」を重視している傾向が明らかになった。シラバスについては、特に必修科目の多い学部では、「必修だからあまり詳しく確認していない」という声や、テスト・レポートのみを確認するケースも見られ、活用度に差があることが確認された。
- ・履修計画を立てるためのツール（履修ガイド、カリキュラムマップ、科目ナンバリングなど）は多数提供されているものの、説明が不十分のため十分に認知されておらず、学生がどのツールをいつ使用すべきかが不明確で、利便性に課題があることが明らかになった。
- ・特に「科目ナンバリング」については、多くの学生が存在を認識しておらず、説明を聞いても理解するのが難しく、使いにくさを感じているとの意見が多数寄せられた。

【履修計画の支援について】

- ・履修登録サイトが限定的な期間のみ開設されることや、サークル等のコミュニティに参加していない学生への情報提供が不十分であるなど、情報アクセスに格差があるとの指摘があった。
- ・教員や助手からの支援については、必修科目の多い学部と選択科目の多い学部での支援内容に差があるなど、学部・学科の特性によって支援内容に差があることがわかった。

【改善に向けた学生からの提言】

履修支援ツール

- ・ツールの目的や役割について履修ガイドに掲載し、十分に説明する必要がある。
- ・履修ガイドは学部ごとに作成して参照しやすくする必要がある。

ガイダンス体制の充実

- ・1年生を対象に、カリキュラム・マップ等の履修支援ツールに関する詳細なガイダンスを開催することや、全体ガイダンスに加え、少人数クラス単位での説明会を設けることで、きめ細かな指導を実現できるとの提案があった。

履修計画を立てる際の情報アクセス環境の改善

- ・kyonetの履修登録ページの常設化を検討し、特に1年生に仕組みを理解してもらうことや、学生がいつでも必要な情報にアクセスできる環境を整備することが重要である。
- ・すべての授業の授業評価アンケートの結果を開示し、履修選択時に学生の実体験に基づく情報を提供することで、より適切な履修計画立案を支援できるのではないかという意見があった。

- ・短期大学で実施されている「履修科目単位チェック表」の全学展開など、履修内容がチェックできる情報提供を充実してはどうかとの意見があった。

コミュニケーション機会の確保

- ・先輩とのコミュニケーションの機会を作り、相談できる体制をつくり、適切な履修が行えるようにすることが必要である。
- ・学部間の制度差を補完し、教職員に相談しやすい環境を構築することが必要である。

2025年度第2回学生評価委員会 開催報告

1. 開催概要

日 時：2026年1月29日（木）17：00～18：30

場 所：2号館606講義室

テーマ：「リーダーシップの共立」の取組みについて

開催形態：対面グループワーク形式

参加者：学生17名、教職員20名

2. 目的

本委員会では、共立リーダーシップの育成を目的とした正課科目および正課外活動について、取組みの充実度や学生の意識・意欲の高まりを評価し、具体的な課題や改善点を明らかにする（正課科目は特に学部・科レベルに焦点をあてる）。

【評価の観点と活用方法】

観点	活用方法
・「リーダーシップの共立」を目指して行っている学内の様々な取組みの認知度、活動への参加度はどれくらいか。 ・アンケートを通じて「リーダーシップの共立」への意識づけを行い、考える機会を提供する。 ・正課（教養／専門）および正課外活動でのリーダーシップ関連の取組みに関する認識を確認する。	認知度・参加度の把握 意識づけ
・「リーダーシップの共立」を意識した学修活動（正課・正課外）に参加してどのような手ごたえ・課題を感じているか。	他学生への共有 改善活動
・「リーダーシップの共立」を目指して行う取組みの内容、実施時期・方法、優先順位などについての、意見・不満・要望を把握し、改善すべき点を明らかにし、提言につなげることができるようにする。	改善活動

3. プログラム

3-1. 事前活動

「リーダーシップの共立」の取組みの認知度、授業受講状況、正課外活動の参加状況、「リーダーシップの共立」の確立に向けて重要だと思う取組み内容について事前に回答してもらう。

事前アンケート結果

回答件数：20件/20人（回答率100%）

概要：

学生は「共立リーダーシップ」を、「他者と協働して目標達成を目指す全員発揮型の力」と認識していることが確認された。リーダーシップ教育を推進する上での有効な取組みとして、85%の学生が基礎ゼミナールや課題解決ワークショップ等の「授業内でのグループワークや振り返り」を高く評価している。一方で、学内外への「情報発信」を有効と捉える学生は25%に留まっている。

3-2. 当日活動

- ①開会の挨拶：山口副学長より学生評価委員会の目的と意義、期待することについて挨拶。
- ②本日の活動テーマと流れの説明：上西全学教育推進機構員より、当日の活動テーマと、流れについて説明。
- ③ウォームアップ・意見交換：自己紹介後、事前に実施したアンケート結果を共有し、「共立リーダーシップ」に関して感じていることや現状の課題について意見交換。

【③ウォームアップ・意見交換の内容】

- ・**Aグループ**：多くの授業でリーダーシップが意識されていると感じる一方で、その定義については、なんとなくはわかるが、具体的に何をすればいいのかわかりにくいという意見があがった。
- ・**Bグループ**：就職活動で共立リーダーシップGPなどの取組みを話すと、企業の人事担当者から高い関心を持たれた。授業は大変だったと感じたが、自然とリーダーシップが身についている実感がある。また、学年を問わず発揮できるのが共立リーダーシップの特徴だと感じているとの意見があがった。
- ・**Cグループ**：学部や科によってリーダーシップに触れる機会が異なると感じているが、グループワーク＝リーダーシップというイメージがある。通常の授業ではどの部分がリーダーシップに関連しているのかわかりにくいとの意見があがった。また、「共立生」はもともと「包容性」があると感じているとの意見もあがった。
- ・**Dグループ**：学部によって実験や実習、グループワークなど、リーダーシップへの触れ方が異なる。具体的にどのようにリーダーシップを身につければよいのかわかりにくいいため、ロールモデルとなる具体例があるとよいとの意見があがった。また、振り返りアンケートが授業の最初と最後にしかないと、途中でリーダーシップに関する意識の抜けが生じやすいという意見もあがった。

- ④協議：「リーダーシップの共立をより実質的なものにするために」をテーマに協議。

協議の観点 4点

- ・学部・科の教育目標(DP)にリーダーシップを設定し、体系的にリーダーシップを高められるよう科目を整理する取組み
- ・個別の授業における「共立リーダーシップ」育成の取組み
- ・正課外（サークル、部活、学生スタッフや委員会、共立Stand Up!プロジェクトなど）の様々な活動における「共立リーダーシップ」育成の取組み
- ・学生が大学での活動または活動全体を「共立リーダーシップ」の観点で記録し、振り返る取組み

【④協議：リーダーシップの共立をより実効的なものにするための提案】

・**Aグループ**：【学修成果の記録・振り返りの仕組みと科目の体系化】

振り返りに関しては、リーダーシップ関連科目に限らず、学修成果を記録するkyonetの「マイステップ」のインターフェースが学年・学期別でわかりにくいのでシステムの機能を向上してほしいとの意見があがった。さらに、学生が振り返りを必ず行うようにするための仕組み（例：単位取得要件に含める）があるとよいとの意見があがった。振り返りに用いるルーブリック（評価基準）をわかりやすくするために、どのようなことができたならS・A評価なのかという具体例があるとよいとの意見があがった。また、2年次以降はリーダーシップの必修科目がなくなるので、リーダーシップを育成する科目を、選択や選択必修ではなく必修科目として設けるとよいとの意見があがった。

・**Bグループ**：【科目の体系化（単位構成）、個別の授業での評価基準説明のタイミング】

リーダーシップ関連科目が2単位であるために学びが途中で途切れてしまうため、内容を深めるために通年化や4単位化をしてはどうかという意見があがった。さらに、基礎ゼミや課題解決のためのリーダーシップ入門などは、学部・科ごとの特色を持ちながらも、課題解決の教育フローを統一する必要があるのでは

ないかとの意見があがった。その他のリーダーシップ関連科目は短大生が他科目と重複せずに履修できるようになるとよいとの意見があがった。また、授業の評価基準がわかりにくいため、リーダーシップの評価基準を授業の1回目に説明してはどうかとの意見があった。

・Cグループ：【振り返り・フィードバックの仕組み化・ビジョンの共有と発信】

学期の始めと学期末だけの振り返りでは成長を実感しにくく、またグループワークではチーム全体の成長は見えるが自身の成長が見えにくいと感じている。毎回の授業で目標設定と振り返りを行うとともに、他者からのフィードバックを充実させる仕組みがあるとよいとの意見があがった。また、学部・科ごとに、どのようなリーダーシップを発揮できるかなどのビジョンを明確化し、SNSやポスターを活用して他学部・科の取組みや正課外活動の認知度を上げるとよいのではという意見があがった。

・Dグループ：【リーダーシップの共通理解・個別の授業での行動目標の設定・全学的な意識向上】

学生がリーダーシップをどのように評価すればよいかかわからない、どのようにリーダーシップを伸ばすかわからないという点については、リーダーシップの内容について学生・教員間が共通の理解を持つことが必要である。例えば、リーダーシップを「他者により影響を与えること」といった誰にとっても理解しやすい言葉で普及させるとよいとの意見があがった。リーダーシップを意識しながら授業を受けていないという点に関しては、具体的な案として、毎回授業冒頭に行動目標を定める時間を設けてはどうかとの意見があがった。リーダーシップへの触れ方が学部・科によって異なる点に関しては、SNSを通じて各学部・科の取組みを発信して他学部・科に普及し、全学的な意識を高めてはどうかとの提案があった。

閉会の挨拶：伊藤副学長より、学生の意見に対するフィードバック。

3-3.事後活動

事後活動として、事後アンケートへの回答および、kyonetマイステップに学生評価委員会の活動について入力。

事後アンケート結果

回答件数：18件/20人（回答率90%）

概要：

多くの学生が「リーダーシップの共立の取組みへの関心が高まった」と回答し、教育目標（DP）の設定や正課外活動の充実度が高く評価された。一方で、個別の授業単位での取組みについては、学期末だけでなく毎回の授業での目標設定・振り返りを「仕組み化」すべきとの意見が見られた。また、記録ツールの操作性向上や、就職活動を含む将来のキャリアとの関連性を具体的に提示することで、学生間の意識の温度差が解消していく可能性が提案された。

4.学生評価委員会における主な意見と提言

事前アンケート、当日の意見交換、事後アンケートを通じて、「リーダーシップの共立」の取組みに関する学生の現状認識と、今後の充実に向けた提言が共有された。

【「共立リーダーシップ」の認識と現状について】

・「共立リーダーシップ」は、他者と協働して目標達成を目指す“全員発揮型”の力として理解しているとの意見があった。一方で、その定義については、大まかな理解にとどまっているのではないかとの意見もあった。

・基礎ゼミナールや課題解決ワークショップ等における授業内でのグループワークや振り返りが、リーダーシップを学ぶうえで有効な取組みであるとの意見があった。

・授業は大変だったとの声もあったが、学びを通じて自然とリーダーシップが身についている実感があるとの意見があった。また、就職活動の場面でも、リーダーシップに関する取組みについて企業から関心を持たれることがあったとの声があった。

・学部や学科によってリーダーシップに触れる機会が異なると感じている学生もあり、どのように身につければよいか分かりにくいとの意見があった。そのため、ロールモデルとなる具体的な事例が示されるとよいとの意見があった。

【評価基準と振り返りの仕組みについて】

・成績評価の基準（ルーブリック）については、具体的にどのようなことができればS評価やA評価になるのかがわかりにくいという意見があった。

・振り返りについては、学期の最初と最後のみであることが多く、授業の途中で意識の抜けが生じやすいとの意見があった。

・グループ全体の成長は見えても、自分自身の成長が見えにくいという意見があった。

・学修成果を記録するkyonetの「マイステップ」について、インターフェースが学年・学期別でわかりにくいとの意見があった。

【改善に向けた学生からの提言】

授業科目の充実

・2年次以降はリーダーシップの必修科目がなくなるため、リーダーシップを育成する科目を必修科目として設けることや、学びを深めるために科目を「通年化」してはどうかとの提案があった。

目標設定・振り返りの機会の充実

・毎回の授業の冒頭に行動目標を定め、最後に振り返りと他者からのフィードバックを行う時間を設けることで、成長を実感できるのではないかと提案があった。

・リーダーシップを伸ばし、評価していくにあたり、リーダーシップを「他者によい影響を与えること」といった、誰にとっても理解しやすい言葉で表現すると理解がしやすいのではとの提案があった。

・授業の第1回目に評価基準を詳しく説明し、具体的な行動指標を提示してはどうかとの提案があった。

取組みの認知度の向上

・SNSやポスターを活用して他学部・科の取組みや正課外活動の認知度を上げるとともに、学部ごとのビジョンを明確化することで、全学的な意識が高められるのではないかと提案があった。

kyonetのマイステップの改善

・「マイステップ」の操作性を改善し、学生が振り返りを必ず行うようにするための仕組み（例：単位取得要件に含める）を取り入れることや、学生が将来のキャリアとの関連性を意識しながら記録できる仕組みがあるとよいのではないかと提案があった。